

学校だより

平成30年7月12日(木)

明るく 元気に 前向きに

第6号

いわき市立平第一小学校(文責 校長 伊達多津也)

1学期も来週が最終週となり、授業日数はあと5日間となりました。

6年生 PTA 学年行事としての筑波山登山は、登山道の危険性からつくばエキスポセンター等の見学となりました。(用意周到に細部に配慮がなされた実行委員の皆様の準備ありがとうございました。)さらに陸上全国大会につながる福島県大会へ5名が出場し、なかでも100m女子で県第2位となる大健闘の結果でした。

【学校教育目標】

一人一人の命を大切にした教育の推進
「肉体としての命」「心の命」

【筑波山登山前日のつぶやき】実行委員のあるお母さんの言葉が心に残ってます。「明日の登山も家族だけだったら登りますよ!」6年生全員の状態を考えての言葉でした。ありがとうございました。



命の大切さ



6月から7月にかけて、本校の学校教育目標である「命の大切さ」について、教科や行事等を通して学ぶ経験をしました。

【鎮魂祭(ちんこんさい)】鎮魂祭は、終戦前月の昭和20年7月26日に、本校校舎が空爆をうけ3名の先生が殉職、校舎全滅となった歴史を風化させず、平和の大切さや命の尊さを継続して学んでいく、本校ならではの大事な行事です。

校長の戦争時の話、黙祷、そして歴史や地域学習を統合して学んだ6年生手作りのDVDを全校生で視聴しました。貴重な学習となりました。

【ユネスコ協会出前授業】

被爆当時本校6年生だった松本元校長先生の実話(被爆時、戦争時の学校生活)を聞くことができました。

【教科道徳での授業】

道徳の授業で、この時期に「命の大切さ」の価値内容に関する学習を位置づけて学習します。

【読書紹介から】 「いのちのおはなし」

養護教諭の読書紹介にあった「いのちのおはなし」の本の紹介も、子ども達が関連して命の大切さを考える大変良い機会となりました。さらに鎮魂祭の校長講話で、「いのちのおはなし」から引用した次の二つの言葉を全校生に紹介しました。

「命は君達の持っている時間だと言えますよ。」

「これから生きていく時間、それが君達の命なんです。」

【校長のひとりごと】 「夏休みならではの経験を」

学級担任時代、夏休みを前に子ども達に話したことです。どこかに連れて行ってもらうことが思い出や経験ではなく、自分なりにたっぷりの時間がある夏休みを利用して、価値のあるやりたいこと、やりとげたいことをしようと働きかけました。

当時子ども達が実際に経験したこと

- ・いわき市を自転車で縦断
- ・旅行記を1冊の本に
- ・とにかく本を読んだ子
- ・トラック運転手のお父さんの仕事体験(関西まで数日間同行)